

外国につながる若者たちによる  
自作映画

上映します

向陽而生

私らしく生きること

日本に来るのが「宿命」だとしたら、

この先は「自らの運命」をひらいていきたい



———脚本・撮影・制作： にじいろ探険隊———

主催：なか国際交流ラウンジ

045-210-0667



## 「にじいろ探険隊」とは

近年、複言語・複文化をもつ外国につながる若者が増加している。2017年12月、「中区・外国人中学生学習支援教室」（主催：なか国際交流ラウンジ）の卒業生たちが主体となり、運営委員会「にじいろ探険隊」を結成した。

By にじいろ探険隊

ラウンジ、中区役所、公益財団法人横浜国際交流協会のもとで、居場所「Rainbowスペース」の企画・運営やさまざまな自己表現、地域貢献活動を行っている。

### 主な活動紹介



2018年6月18日  
3R啓発セミナー



2018年8月12日  
運動会の開催



2018年9月23日  
中区多文化フェスタで  
発表



2018年12月2日  
防災訓練で  
通訳ボランティア



2019年1月27日  
餅つき大会で  
通訳ボランティア



2019年3月10日  
「三塔の日」で  
通訳ボランティア

そして2019年では、隊員たちの実話をもとに映画の自主制作に挑戦した。映像を通して、若者が思う「私らしく生きること」をお届けします。

### 映画のあらすじ

高校3年生の穆千里（ぼくせんり）は、中学校2年の時に日本で働く母のもとに来た。日本語・学校の勉強・バイト・将来の進路…親にも理解されない苦労が続く中、「もし母国に残っていたらこんなこともなかったのに」と彼は課せられたこの日本暮らしが納得できずにいた。

そんな中、彼は中学生の時に通っていた学習支援教室の先生に声かけられ、外国につながる若者の居場所づくりの運営委員会に参加した。そこで出会った仲間たちと「私たちはどんな居場所が必要なのか」と話し合ううちに、「そもそも私たちって今をどう生き、これからはどう生きていきたいのか」と問うようになった。

来日後の思い、親との絆、仲間との学び合いを描いたこの映画は、複数の言語文化間に生きる若者たちが自分の「ライフ」と向き合い、自分らしい生き方を見つけようと動き出した物語である。